

指定管理施設（総合福祉センター）事業評価表

母子・父子福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度 評価	平成28年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H28 年度	実施回数 (回)	参加延べ人 数(人)	
交流事業	1	夏季交流事業 (地球村での宿泊体験)	1	7/16～17	自然観察や自然体験を通じた健全育成の場とする。また、子どもだけの参加にすることで交流を深め、親もリフレッシュできることを目的とする。	14	1 (一泊二日)	48	・参加児童：14名 ・内容：オリエンテーリング、工作、星空観察、ごはん作り 等 ・低学年から高学年まで学年の幅も広く、当日初対面の子どもたちが楽しく安全にできる活動を考えるのは難しい部分もあったが、グループで協力して取り組めるように工夫した。 ・活動中に喧嘩等のトラブルもあったが、ボランティアの協力もあり事故なく終えることができた。 ・低学年の時から毎年参加している子もあり、夏の思い出づくり、親のリフレッシュの機会となっている。
		社会見学 (春：エアーパーク・浜名湖遊覧船・うなぎパイファクトリー) (秋：愛知こどもの国・竹島水族館)	2	6/5、11/13	親子で出かける機会を提供し、参加者同士の仲間づくりや体験学習の場を目的とした交流事業の一環として行う。		2	51	①春のわくわく体験ツアー(6/5) ・行き先：エアーパーク・浜名湖遊覧船・うなぎパイファクトリー(静岡県浜松市) ・参加家族：14家族 33名 ・内容：施設見学・遊覧船・工場見学 ・遠方で移動時間が長かったが、バスレクなどを行い、移動中も楽しめるよう工夫した。 ・親子とも、参加者同士で会話する姿も多くみられ、交流事業としての目的も果たすことができた。 ②秋のわくわく体験ツアー(11/13) ・行き先：愛知こどもの国・竹島水族館(愛知県西尾市・蒲郡市) ・参加家族：9家族 18名 ・内容：園内散策・蒸気機関車乗車・遊具あそび・アシカショー観覧 ・参加者が1日楽しめる行き先と内容を工夫し、企画を行った。秋は行事が多いからか、春よりも参加者が少なく残念だったが、新規の方の参加もあり、和気あいあいとした雰囲気で行うことができた。
		冬季交流事業 (スキー・スノボツアー)	1	1/22	ひとり親家庭の親子が、親子だけでは容易に体験できないと思われるスキーやスノーボード、雪遊びを通して、参加者同士の交流を図る。		1	45	・行き先：駒ヶ根高原スキー場(長野県駒ヶ根市) ・参加家族：17家族 41名 ・新規の方の応募も多数あり(16家族)、応募総数は28家族62名あった。新規参加家族を優先して、抽選を行った。 ・レベル別にグループ編成を行い、インストラクターの指導で初めての子も滑れるようになった。参加者の方からは「毎年このツアーを楽しみにしている」「母親一人では連れて行けないのでとても助かる」等の感想をいただいております、今後も冬の恒例事業として続けていきたい。
		寡婦交流事業 (ヨガ、盆踊り、料理教室、園芸教室、しめ縄づくり、保健室コーチング講座)	6	5/29 8/1 8/3 10/16 12/4 12/17 3/18	寡婦の方の健康に関することや季節行事を通じ交流を図る。		7	195	・今年度から新たに始めた事業ということもあり、どんな企画が寡婦の方に興味をもっていたか、喜んでいただけるか、アンケートを実施したり、母子・父子寡婦福祉会の方の意見を伺ったりしながら企画を行った。 ・特に園芸教室は人気があったので、29年度も企画したい。 ・料理教室やしめ縄づくりは、寡婦の方だけでなくひとり親家庭の親子の参加もあり、寡婦の方と育児や家事について話している姿も見られ、とても良い交流の場となった。
		小計	10	—			10	339	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価	平成28年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H28年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
ひとり親支援事業	1	夏季休暇中の一時預かり(わくわくキッズクラブ・同窓会)	21	夏休み20日間 春休み1日	夏休みの期間中、ひとり親家庭の小学生を対象に、遊びや自由勉強をしながら規則正しい生活を送れるよう、子どもの活動の場を提供するとともに、保護者が安心して仕事に出られることを目的とする。	12	22	191	・参加児童:7名(うち新規2名) ・内容:自主学習・調理実習・工作・外出・多世代交流など ・たじっこクラブ(学童)を利用する児童が多いようで、高学年が中心の7名の児童の参加にとどまった。(小6:3名 小5:1名 小4:2名 小1:1名) ・少人数を活かし、一人ひとりに指導員が目を向け活動することができた。 ・デイサービスや老人福祉センターなど、複合施設の特性を活かして多世代交流の場を多く設けることもでき、雑巾作りを教えてもらったり、ゲームの時などには高齢者を気遣う優しい心を育むことができた。 ・課題としては、たじっこクラブは前年度(1月)から夏休み期間も含めた利用の申し込みがされているようで、わくわくキッズクラブを募集する頃(6月前半)にはほとんどの児童が夏休みの行き場が決まっている状況となっている。そのためわくわくキッズクラブの利用者の新規開拓や、増員はなかなか難しいのが現状である。
		児童学習支援(子ども習字教室)	24	第1・3月曜日	ひとり親家庭の子どもの知識や技能の習得をする。	13	24	202	・参加児童:7名 ・1時間という短い時間だが、講師も献身的に指導していただき児童・保護者とも良い関係を築いてくださった。 ・参加者も、保護者の仕事が終わる次第、遅れてでも駆けつけて下さる方もおられ、子どもの学習の場として大切に思っていたいただいていると感じる。 ・年間を通して、対象の家庭と継続して関われる唯一の事業であることを意識して、参加者との関係づくりを大切にしている。
		就労支援講座(メイクアップ講座)	1	3/5	ひとり親家庭の親が就職に役立つ技術や知識を学び、スキルアップを目指す。	10	1	13	・参加者:13名 ・「自分に合ったメイクやお手入れ方法を学び、日々の仕事や転職等での面接の第一印象を良くしたり、内面からも活き活きと過ごせるきっかけづくり」を目的として行った。 ・当日は和気あいあいとした雰囲気の中で行うことができ、忙しい子育て中でも手軽にできるお手入れ方法なども学ぶことができた。 ・今年度より新たに始まった事業なので、今後はアンケートを実施するなどして対象者の方の意見も取り入れながら、就労に活用できる講座を企画していきたい。
		小計	21	—			22	406	
相談業務	1	子育て相談		随時	ひとり親家庭の自立生活を手助けする。	12	0	0	＜相談の内容＞ ・子どもの授業料の支払いについて ・資格取得のための貸付について ・最近引っ越してきた 利用できる教室・サークルはないか ・子どもの進学資金の貸付について ・父子家庭の父より 現在の生活の不安 ・父子家庭の自分の息子の家庭について ・フルタイムで働きたいがなかなか雇用先が見つからない ・娘の就職の為に車を購入する資金の貸付について
		生活一般相談		随時			10	10	貸付の相談は、子ども支援課と連携し対応したが、条件が合わず、結果的に対象外となった。 生活の相談に関しては、相談者の気持ちに寄り添い話を聞きながら、対象になりそうな制度・サービスの提案をして対応した。 貸付や制度に関して担当者の知識がまだ十分とはいえず、経験も浅いことから、子ども支援課の方などに教えていただきながら対応してきた。今後は相談に対して、該当する制度やサービスがあるのか、最低限の判断をして、その上で関係機関と連携を取っていけるよう、スキルアップを目指したい。
		小計	0	—			10	10	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価	平成28年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H28年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
交流事業（自主）	2	<ひとり親家庭交流サロン>			季節行事を通して、親子のふれあいの場、参加者同士の仲間づくりの場を提供する。	13	12	350	・移動母子・父子福祉センターでは、児童センター13ヶ所を訪問して、乳幼児クラブ等で母子・父子福祉センターの事業紹介を行ったり、共催で行事を行ったりした。より多くの方に母子・父子福祉センターを知っていただくために、今後も児童センターの訪問活動を継続するとともに、保育園等にも出向いていきたい。 ・デイキャンプとバレンタインチョコ作りは、太平児童センターと合同で行い、ひとり親家庭の子どもだけでなく、大人数で楽しむことができた。 ・クリスマス会は6家族と少人数だったが、クリスマスツリー作りやミニパフェ作りなどを行なう中で、参加者同士の交流も生まれ、また参加したいという感想をたくさんいただくことができた。 ・新入学お祝い会は保育園・幼稚園にも協力していただき、対象者にチラシを配布したところ6家族の参加だった。毎年劇の観賞をしていたが、今回は講師を招いて科学工作を行い、子どもも大人も楽しむことができ、大変好評だった。3家族は新規の参加者だったので、今後の利用につなげていきたい。 ・どの行事も、内容に関しては喜んでいただけたので、参加者を増やしていけるよう、より積極的にPRしていきたい。
		移動母子・父子福祉センター	8	4月～3月					
		デイキャンプ(太平児童)	1	7/28					
		クリスマス会	1	12/11					
		バレンタインチョコ作り	1	2/4					
		新入学お祝い会	1	2/26					
		<多世代交流事業>			デイサービス・老人福祉センター・児童センターと合同で季節行事等を行い、世代を越えて一緒に楽しい時間を過ごし、お互いに助け合う気持ちも育む。	13	20	956	・複合施設ということを活かして、太平デイサービス、老人福祉センターと交流の場を多く設けることができた。 ・でこぼこ夏まつりやハロウィン、ふれあい豆まき会では、子どもと高齢者の方がふれあいを持ちやすいゲームを企画して、交流の場となるよう取り組んだ。 ・縁日では、わくわくキッズクラブの子どもたちがゲームを楽しみながら、デイサービスの利用者さんの手助けやゲームの手伝いなどを進んでする姿がたくさんみられた。 ・雑巾作りでは、老人福祉センターの利用者さんに縫い方を教えていただきながら、1年生の子どもも一生懸命がんばり、夏休み後に学校に持って行く雑巾を作ることができた。 ・ハロウィンとふれあい豆まき会に関しては、各地域でも同じような行事が開催されており、ひとり親家庭の方もそれぞれの地域で参加されているようで、参加は数人だった。
		わくわくキッズクラブ手話(デイ)	11	7/21～8/21.3/28					
		でこぼこ夏祭り(児童・老人・デイ)	1	8/5					
		わいわい教室(老人)	1	8/4					
		縁日(デイ)	1	8/17					
		雑巾作り(老人)	1	8/22					
		ハロウィン(デイ・児童)	1	10/29					
		ふれあい豆まき会(デイ・児童)	1	1/28					
		新春お茶会(老人・児童)	1	1/5					
		小計	18	—			32	1,306	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価	平成28年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
			回数	実施日	ねらい	H28年度	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
趣味・教養	2	<サークル活動>			趣味・教養の講座を開催し、技能や知識の習得をするとともに、参加者同士の交流の場とする。	13			・今年度から事業縮小により、すべての教室がサークル化され、自主活動となった。 ・布ぞうり同好会、万年青の会、野菊の会は、ふれあい作品展にも出品し、日々取り組んでみえる作品をたくさんの方に観ていただくことができた。 ・Free PC倶楽部とジュピターは、参加人数が少なくなってしまう今年度で終了となるが、他のサークルは引き続き活動されるので、継続してサポートしていきたい。
		パソコンサークル	24	第1・3水曜			24	155	
		布ぞうり作り同好会	24	第2・4木曜			24	213	
		万年青の会	24	第2・4水曜			24	148	
		お茶・お花サークル	12	第1水曜			12	116	
		野菊の会	24	第1・3月曜			24	240	
		泉会	24	第1・3月曜			24	144	
		火曜日夜パソコンサークル	48	毎週火曜			48	137	
		Free PC倶楽部	24	第1・3月曜			24	135	
		ジュピター(ヨガ)	24	第1・3木曜			24	91	
		小計	228	—			228	1,379	
その他	2	母子・父子寡婦福祉会		通年	母子・父子寡婦福祉会と連携を図り、活動のサポートを行うと共に、情報交換を行う。	13	—	—	・定期的に行われている役員会に出席したり、行事に参加したりして、連携を図った。 ・寡婦会の方を通して受けた相談ケースもあり、今後も情報交換をしながら、連携を図っていきたい。
		情報提供		通年	母子・父子福祉センターを広く知っていただき、利用者の開拓をする。母子・父子家庭自立支援教育訓練給付金事業を推進する。	13	—	356	・各地域の民生児童委員協議会に出席し、母子・父子福祉センターの事業紹介を行い、地域に対象者の方がみえたら紹介していただくよう依頼した。児童館・児童センターの乳幼児クラブなどにも訪問し、保護者の方に向けて事業紹介を行い、新規利用者の開拓に繋がった。 ・母子・父子家庭自立支援教育訓練給付金事業については、資格取得を希望してみえる方や転職を考えてみえる方からの相談の際に紹介した。
		小計	0	—			0	356	
		計	0	—	—	—	—	3,796	—

(留意事項) ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。